

# 商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年4月調査結果 -



2009年4月30日

## < 結果のポイント >

4月の全産業合計の業況DIは 70.4と、前月に比べ+2.4ポイントと、依然厳しい水準ながら2カ月連続でマイナス幅は縮小している。

業種別では、依然として厳しい水準ながら、製造業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

世界的な景気悪化の影響により、製造業を中心に、受注や売上の減少、雇用の過剰感など引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。従業員DIは 21.9と、1991年5月の調査開始以来の最悪値を記録している。また、仕入単価DIは引き続き上昇感が弱まっているものの、一部には収益改善に結びついていないという声もある。

来月以降も、受注や売上の減少、雇用情勢の悪化を懸念する声が寄せられているが、一部には高速道路料金値下げや定額給付金などの効果、期待感も出てきている。

## ----- 調査要領 -----

調査期間 2009年4月16日～22日

調査対象 全国の406商工会議所が2584業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業: 383 製造業: 615 卸売業: 234

小売業: 734 サービス業: 618

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

### DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算: (好転) - (悪化) 売上: (増加) - (減少)

-----

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839

E-Mail: Sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## 業況DIは、依然厳しい水準ながら2カ月連続でマイナス幅が縮小

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、70.4となり、依然として厳しい状況が続いているものの、前月に比べ+2.4ポイントと2カ月連続でマイナス幅は縮小している。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら、製造業を除く、すべての業種でマイナス幅は縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、世界的な景気悪化の影響により、製造業を中心に、受注や売上の減少、雇用の過剰感など引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。他方、高速道路料金の値下げや定額給付金などの効果、期待感も出てきている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

### **【建設業】～業況DI、資金繰りDI、仕入単価DIでマイナス幅が縮小～**

- ・「国の追加経済対策に伴う公共事業の追加に期待しているが、厳しい状況に変化は見られない」（一般工事業）
- ・「受注が大幅に減少したため、従業員の削減を実施」（建設工事業）
- ・「公共事業の激減などにより受注が減少している」（管工事業）

### **【製造業】～資金繰りDI、従業員DIは調査開始後の最悪値～**

- ・「今後も売上の減少に加え、採算面でも厳しい状況を予想している」（金属加工機械製造業）
- ・「従業員は慢性的に過剰であり、一部雇用調整を行っている」（工業用プラスチック製造業）
- ・「同業他社では不況で倒産・廃業が相次いでいる」（その他の機械製造業）

### **【卸売業】～業況DI、売上DI、採算DI、資金繰りDIでマイナス幅が縮小～**

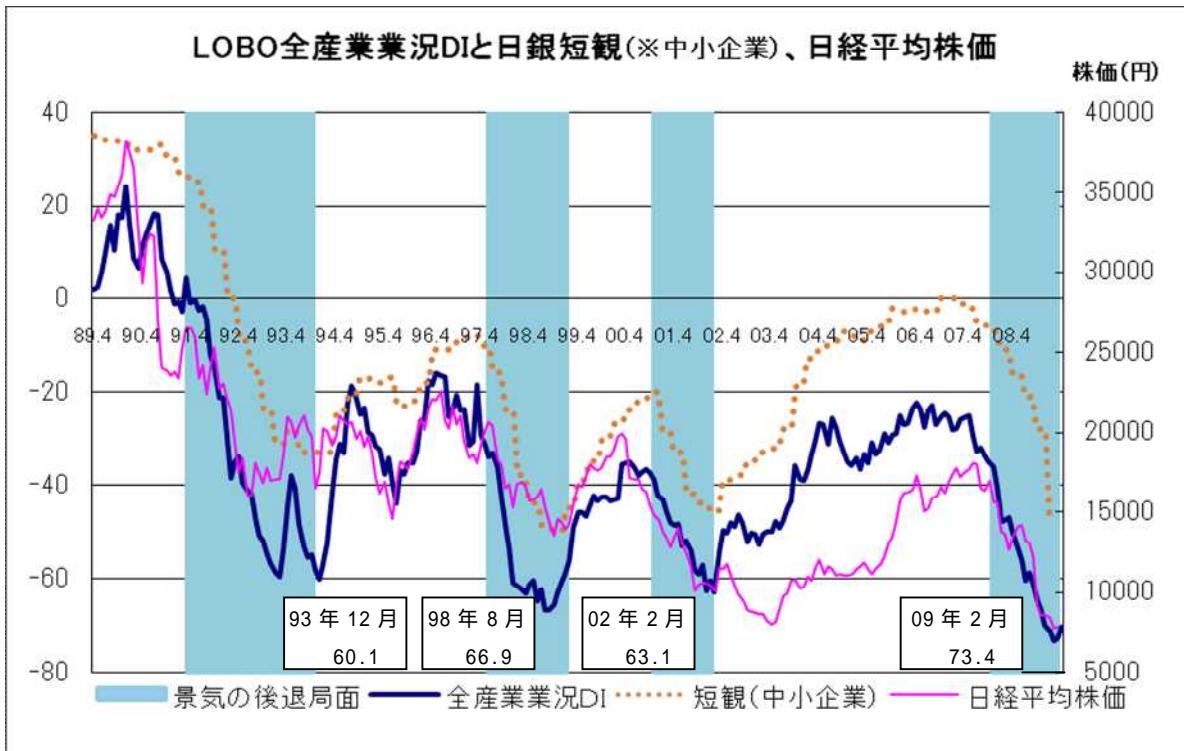
- ・「個人消費の低迷で大幅に売上が減少」（家具・建具等卸売業）
- ・「人員削減、賃金カットなど経費圧縮を実施」（衣服・日用品卸売業）
- ・「今後の一段の悪化は遠のいたように思われるが、賞与の見込みは全く立っていない」（農畜産水産物卸売業）

### **【小売業】～従業員DIを除くすべての項目でマイナス幅が縮小～**

- ・「依然として厳しい売上が続いているが、定額給付金に期待」（百貨店）
- ・「中小企業緊急雇用安定助成金を利用し、雇用を維持」（その他の小売業）
- ・「郊外の大型郊外店舗の閉店が増加」（商店街）

### **【サービス業】～業況DIを含めすべての項目でマイナス幅が縮小～**

- ・「高速道路料金値下げにより土日の売上げが増加」（旅館）
- ・「企業の経費削減による派遣切りで、業況が悪化」（他事業サービス業）
- ・「自動車の販売不振が続き、低価格競争が激化」（自動車整備業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、70.4と、依然厳しい水準ながら、前月に比べると+2.4ポイントと2カ月連続でマイナス幅が縮小している。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら製造業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(5月~7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が60.3と、昨年同時期の先行き見通し(47.1)に比べて13ポイント以上悪化している。

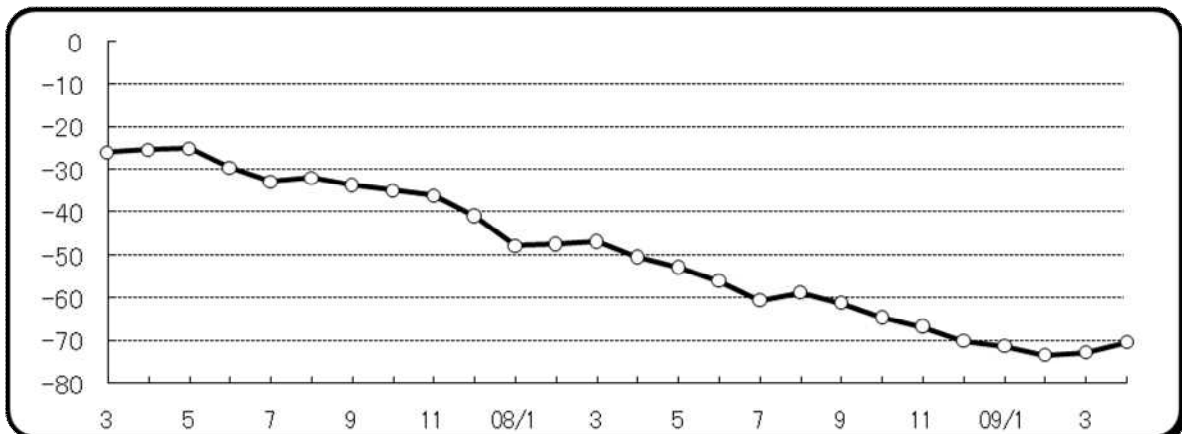
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対しマイナス幅が拡大している。

業況DI(前年同月比)の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	66.7	70.2	71.3	73.4	72.8	70.4	60.3 (47.1)
建設	70.0	74.2	73.2	75.8	72.1	70.9	65.0 (60.5)
製造	68.3	72.7	72.5	75.6	73.5	74.4	60.7 (46.8)
卸売	67.6	67.6	71.6	71.1	70.5	66.7	53.6 (41.1)
小売	64.8	69.2	70.6	71.5	75.5	70.9	63.4 (47.2)
サービス	64.6	67.3	69.6	72.6	70.2	66.9	56.1 (40.9)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年4月の先行き見通しDI<以下同じ>

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、66.2となり、依然厳しい状況ながら1年ぶりにマイナス幅が縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種では縮小した。

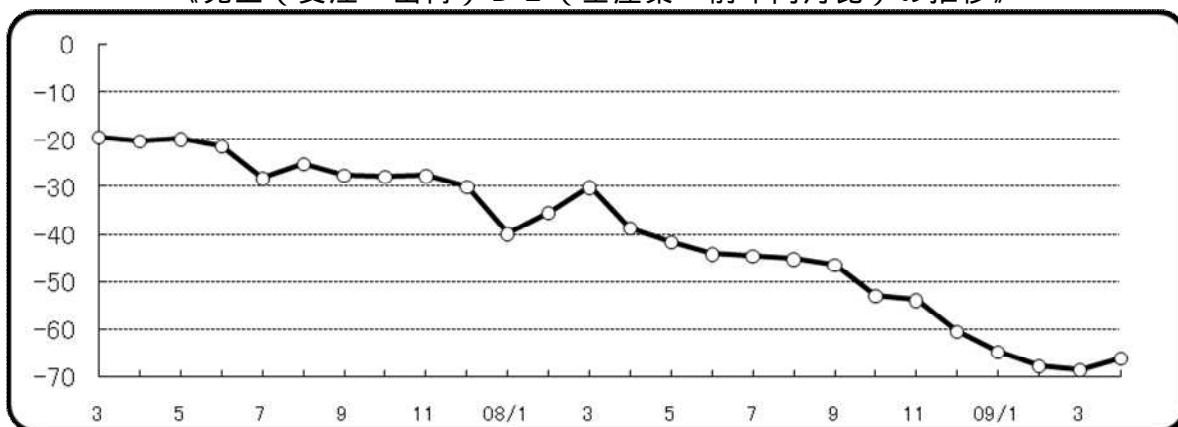
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が55.5と、昨年同時期の先行き見通し(35.7)に比べ19.8ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	53.8	60.4	64.7	67.7	68.5	66.2	55.5 (35.7)
建設	62.8	63.1	69.4	68.2	64.8	68.2	58.6 (52.0)
製造	51.2	59.2	65.4	72.3	68.7	70.3	54.6 (32.1)
卸売	50.0	60.0	60.1	57.8	68.5	60.9	43.5 (23.7)
小売	53.9	58.7	63.8	67.7	72.1	65.9	57.7 (38.8)
サービス	52.0	61.9	64.0	66.5	66.7	63.2	56.7 (29.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅がほぼ横ばいの 66.3 となり、引き続き低水準で推移した。産業別にみると、D I 値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種では縮小した。製造は、2009年2月と同値となる調査開始後の最悪値を記録した。

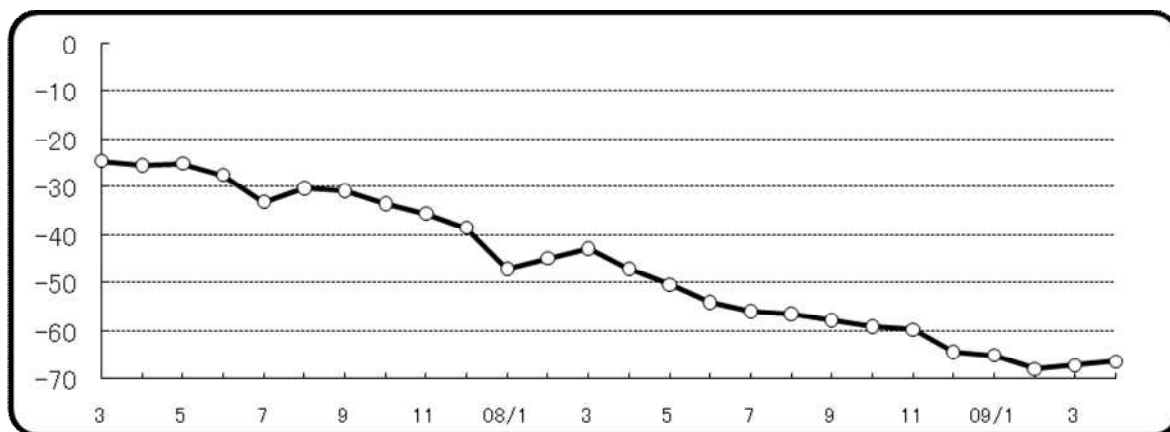
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 55.6 と、昨年同時期の先行き見通し( 44.0 )に比べて11.6ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	59.7	64.4	65.1	67.9	67.2	66.3	55.6 ( 44.0)
建設	67.5	66.4	68.5	70.8	67.0	70.5	59.1 ( 58.9)
製造	62.4	68.3	67.8	73.6	71.6	73.6	55.3 ( 47.6)
卸売	57.7	57.9	59.5	55.2	60.3	56.9	44.9 ( 32.2)
小売	55.1	61.4	62.3	66.5	67.4	64.4	59.6 ( 40.4)
サービス	58.2	65.3	65.7	67.0	65.2	61.9	53.2 ( 39.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	41.5	45.9	45.8	48.5	48.1	46.9	41.7 ( 30.7)
建設	55.2	56.8	51.6	59.2	57.7	56.4	50.7 ( 46.2)
製造	44.9	50.1	52.6	54.2	53.2	57.3	50.6 ( 28.3)
卸売	37.0	42.3	43.0	41.1	43.8	41.2	35.4 ( 25.9)
小売	34.9	38.2	38.6	40.2	40.3	39.2	34.9 ( 27.4)
サービス	38.1	44.3	44.3	47.8	46.8	40.7	36.7 ( 28.6)

D I = ( 好転の回答割合 ) - ( 悪化の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、46.9となりマイナス幅が縮小した。産業別にみると、製造を除きマイナス幅が縮小した。D I値のマイナス幅は、製造が調査開始後の最悪値を記録した。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇する見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	49.6	40.4	31.1	28.0	25.7	15.4	10.4 ( 50.6)
建設	55.7	46.6	35.0	34.1	29.6	19.7	15.6 ( 57.1)
製造	54.7	42.4	29.3	28.4	26.8	15.6	7.3 ( 56.2)
卸売	36.6	29.2	19.6	18.0	17.2	18.8	6.5 ( 38.2)
小売	44.9	35.5	30.4	27.2	23.9	11.4	8.6 ( 46.8)
サービス	51.2	44.5	35.8	28.4	27.9	15.5	13.9 ( 49.7)

D I = ( 下落の回答割合 ) - ( 上昇の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは15.4となり、上昇感が弱まった。産業別にみると、卸売を除く、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は引き続き上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	10.8	16.3	18.1	20.2	20.0	21.9	19.0 ( 4.3)
建設	28.7	30.3	39.6	37.4	34.5	34.5	31.4 ( 19.4)
製造	13.8	22.9	27.5	28.7	28.6	33.0	27.4 ( 3.5)
卸売	11.3	15.3	17.0	18.8	20.7	23.9	23.2 ( 9.3)
小売	3.5	8.5	5.4	8.2	8.4	11.8	9.1 (0.9)
サービス	4.1	10.1	9.7	14.5	14.7	13.6	12.6 (0.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計の従業員 D I は、調査開始後の最悪値を記録。産業別にみると、D I 値は製造、卸売、小売で過剰感が強まった一方、他の 2 業種はほぼ横ばい。中でも製造は、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売、サービスはほぼ横ばい、他の 3 業種で過剰感が弱まる見通し。



## 【2009年4月の景気キーワード】

### 受注の大幅な減少

世界景気の悪化に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「公共事業の削減などにより、景気の状態は厳しい」(土別・一般工事業)、「特に民間工事の落ち込みが激しく苦しい状況」(岩見沢・建設工事業) 製造業からは、「全体的に物の動きが悪く、受注も非常に少ない」(酒田・織物外衣製造業)、「景況は最悪で前年比10%しか受注がない」(さいたま・ブリキ缶等製造業)、「発電プラントおよび造船・製鉄業において工事の延期もしくは中止があり、全体の工事量が減少」(伊万里・産業用電気機械製造業)などの声が寄せられている。

### 雇用情勢のさらなる悪化

売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、引き続き倒産・廃業に加え、雇用調整や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「年末工事が終了後、新規受注がなく人員も過剰気味」(新潟・電気工事業) 製造業からは、「急速な生産調整など減産や操業時間の減少が見られる。一部には雇用調整を行う企業が出ている」(新居浜・一般産業用機械製造業) 卸売業からは、「県外のハローワークから男性で40歳以上の求職の応募が続いている」(中野・農畜産水産物卸売業) サービス業からは、「従業員を雇いたくても給料の支払い余力がない」(八女・商店街)などの声が寄せられている。

### 先行きに対する期待感

高速道路料金値下げや定額給付金など、政府が打ち出している施策による景気底入れへの期待感も出てきた。製造業からは、「売上減が続く中、『定額給付金で畳を入れ替えよう』というキャンペーンポスターを作成」(倉敷・畳製造業) 小売業からは、「中心商店街を舞台にサンバカーニバルを開催。高速道路料金値下げによる来街者の増加を期待」(静岡・商店街) 「定額給付金を活用した商品券発行による商店街への来訪者増を期待」(蒲郡・商店街) サービス業からは、「定額給付金を利用したプランが大当たり」(米沢・旅館)などの声がある。一方で、「高速道路料金値下げによる影響で土日の来客数が前年比で減少」(水戸・百貨店)といった声もあった。

## 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 2月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化
3月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化
4月	受注の大幅な減少	雇用情勢のさらなる悪化	先行きに対する期待感

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況D I、資金繰りD I、仕入単価D Iでマイナス幅が縮小した。「公共事業の前倒し実施によりこの時期としては受注がある」、「経済危機対策などの公共事業の発注を、今か今かと待っている」(ともに一般工事業)、「国の財政出動による公共工事の地方配分の増額を期待」(土木工事業)、「公共事業の激減に伴う受注の減少で、中堅建設業が倒産し債権回収ができない」(建築工事業)、「元請業者からのコストダウンの要請が多数きている」(左官工事業)といった声が寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D I、売上D I、採算D I、資金繰りD I、従業員D Iでマイナス幅が拡大した。また、資金繰りD I、従業員D Iは調査開始後の最悪値となった。「中小企業は、受注の減少による操業低下、雇用調整、消費低迷という悪循環になり、未だ出口の見えない状態」、「新年度に入り一段と仕事量が減少。業界で雇用調整助成金制度の勉強会を計画中」(ともに一般産業用機械製造業)、「3勤4休、2勤5休などの厳しい状況が続いている。非正規社員はもとより正社員にも雇用調整が進んでいる」、「自動車用部品、鋳物製造、プレス加工業などを中心に受注は減少傾向。原材料となる鋼材価格は依然として高止まりしており、収益面は厳しい」(ともに自動車・付属品製造業)、「漁獲量の減少により関連産業の業績は低迷。大口顧客から値引きの要請が強く、採算も悪化」(他の輸送機器製造業)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況D I、売上D I、採算D I、資金繰りD Iはマイナス幅が縮小した。「消費者の買い控えと低価格志向の影響で厳しい状況」(各種商品卸売業)、「採用を抑えることで従業員は適正水準になったが、売上減が続く場合、人員削減を検討する」、「受注が減少し、売上は減少傾向。資金繰りの悪化を懸念」(ともに農畜産水産物卸売業)、「公共・民間工事の激減により建築資材の売り上げ減少。社員に採算を重要視するよう指導」(建築材料卸売)、「個人消費の低迷によりますます売上が減少」といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D I、売上D I、採算D I、資金繰りD I、仕入単価D Iでマイナス幅が縮小した。「流通業界全体として商品の値下げ傾向にあり売上が減少」、「不況のあおりを受けた倒産など閉店退店の空きテナントが増加」(ともに百貨店)、「消費者の買い控えや低価格志向により売上が減少。人員削減を検討している」(その他小売業)、「新入社員などの歓迎会は例年より地味な印象で、外食産業の売上は予想より低調」、「近隣大型百貨店の閉店により来街者が大幅減」(ともに商店街)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況D Iを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小した。「宴会は減少したが、高速道路料金値下げ効果と見られる個人観光客が増加」、「会社の歓送迎会の予約がまったくなく、先行きが不安」(食堂・レストラン)、「個人消費は依然低迷し厳しい状況」(すし店)、「景気悪化の影響から来店者数は減少傾向」(喫茶店)、「団体客の来店が前年と比べ減少。大型連休も期待できない」(飲食サービス業)、「企業の出張抑制により、客数が減少。客室料金も下落し、採算も悪化」(旅館)、「顧客の来店数が減り、月平均売上が15%減」(理容)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東北、東海を除いた6地域でマイナス幅が縮小している。特に四国では、高速道路料金の値下げ効果などから、非製造業を中心としてマイナス幅が大幅に縮小した。

ブロック別の向こう3カ月(5月~7月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、四国を除きすべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	08年 11月	12月	09年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全 国	66.7	70.2	71.3	73.4	72.8	70.4	60.3 ( 47.1)
北 海 道	58.8	70.5	63.5	70.8	60.7	62.9	51.7 ( 50.5)
東 北	61.0	78.2	72.9	70.9	71.9	72.7	68.7 ( 51.4)
北陸信越	69.7	67.6	75.7	72.9	73.3	70.7	60.4 ( 46.4)
関 東	66.2	71.1	71.6	77.0	73.8	71.9	61.7 ( 45.9)
東 海	63.4	67.6	70.3	71.9	70.3	77.0	63.0 ( 40.6)
近 畿	74.4	76.1	75.3	79.8	77.5	74.1	63.7 ( 48.2)
中 国	74.8	73.3	74.4	77.7	81.2	74.1	58.3 ( 55.0)
四 国	60.5	55.3	63.6	59.8	66.4	49.6	41.3 ( 45.5)
九 州	66.2	65.8	69.8	69.5	71.8	71.6	64.2 ( 44.6)